



### 植物は、その土地ならではの 色彩を抱えている。

東郷池を見下ろす丘の上に、その建物は建つ。2005年に  
廃校になった桜小学校の旧校舎だ。5年後、校舎は「さくら  
工芸工房」となって新しいのちを授けられた。伝統工芸  
文化の担い手を育成することを主眼とした施設である。

染色の工房である山口敬子さんの「茜工房」は2階南側の1  
室だ。桜小学校時代には理科室だったから実験用流し台の  
痕跡などがあって、それが美しい布の風合いをふしぎに引き  
立てている。

20代のときから、長く看護師をつづけていた。京都や関東な  
ど各地で活躍するが、体調をくずし、退く。「さて、何をしよ  
うかしら」。すぐに浮かんだのが染織だった。国鉄(現JR)  
マンだった父が趣味で型染めに凝っており、少女時代なじん  
でいたのだ。40代後半から師について基礎から始め、懸命  
に取り組んだ。ずっと自宅で製作活動をおこなってきた、「さ  
くら工芸工房」オープンを機会に独立した工房を得た。化  
学染料ではなく、もっぱら草木染めだ。「もちろん化学を否  
定するわけではありませんが、自然から色彩をいただくこ  
との貴さに心を惹かれています」。二十世紀梨の木や、地元  
野花(のきょう)の名産・野花豊後梅の木からも、風趣に富む  
色を引き出す。「植物はその土地ならではの色を抱えている  
のです」。体験教室などで、日本人の豊かな色彩感覚を広く  
伝えていきたい。茜工房の「茜」は、東郷池を照らす夕日の色  
である。大好きな色だ。

茜工房

山口敬子



ゆ  
う  
ゆ  
う、  
ゆ  
り  
は  
ま